

神戸大学でのJEITA関西講座

関西支部「産学連携分科会」では、会員各社よりエンジニアを大学に派遣して講義を行う「JEITA関西講座」を、神戸と大阪、両大学の大学院工学研究科で継続実施しています。

例年、前期は神戸大学で実施します。特別講義Ⅱ「企業における研究・開発の実践」の講義名で2006年度にスタート、今年で20年目となりました（2013年度より関西工学教育協会電気分科会と共同実施）。大学側からも高い評価を得ており、工学研究科HPで「特色のある科目」として紹介されています。

講義は、学生の皆さんに「①産業界のものの考え方、仕事の進め方を知り、②技術・研究開発と社会との関わりについて考え、③エレクトロニクス業界への興味・関心を深めてもらう」ことを目的としています。

昨年12月に、産学連携分科会は関西IT・ものづくり技術委員会から関西支部運営部会に移管されました。その結果、講師派遣企業が拡大し、神戸大学への派遣は昨年の8社から11社となりました。全体コマ数との関係から、今年度は各回2社より講義いただくこととし、5月以降、毎週金曜日に右表の通り実施しました。

各社の担当時間45分においては、最初に講師より30分程度の講演、続けて質疑応答を行ないました。全講義終了後、学生は担当する企業毎に分かれ、改めてグループワークを行い、成果を発表しました。さらに各社を訪問し、講師に講義テーマに関するインタビューを実施、学びを深めることができました。

電気電子工学専攻 博士課程前期1年のほぼ全員にあたる約50名が受講。講義に関する学生へのアンケートでは、「とても有意義」、「有意義」が96%と、高い評価を得ることができました。



講義の様子

講義スケジュール

月	日	テーマ	担当企業
5	9	業務用機器とUX 「使いやすさをデザインする」	TOA
		半導体の研究開発における データサイエンスについて	ローム
	16	研究所から提案する 気象イノベーション	古野電気
		AIoT： 人と社会に寄り添うIoT	シャープ
	23	ロボットによる分析 前処理工程の自動化	島津製作所
		COSMOSセンサの 概要説明と最新の研究事例 のご紹介	新コスモス電機
	30	長期環境変化に対する 技術開発の備え	村田製作所
		企業での研究開発の魅力と キャリア形成について	オムロン
6	13	企業における研究者と 開発者の視点	パナソニックHD
		電子部品技術者の企業に おける研究開発	京セラ
	20	空調機の省エネ性と省冷媒を 支える熱交換技術の開発	三菱電機
	27	グループワーク	
7~8	4、11、18	グループワーク発表会	
	25、8/1	講師インタビュー	全社